

キャットミュージックカレッジ専門学校 専門課程

2024年度 自己評価報告書

(基準日2025年3月31日)

はじめに

本校では、学校教育法及び学校教育法施行規則に則り、学校評価（自己評価・学校関係者評価）実施に向けた体制作りを行ってまいりました。そして現在、文部科学省策定の『専修学校における学校評価ガイドライン』をもとに、学内におけるPDCAサイクルの確立を目指し自己評価を行っています。より充実した、教育環境と在校生・卒業生のサポート体制確立に向け、さらなる努力をしていく所存でございます。

本校関係各位の皆様におかれましては、さらなるご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

2025年7月
学校法人大阪創都学園
キャットミュージックカレッジ専門学校
学校長 美根 宏史

<自己評価委員会>

委員長 美根 宏史（学校長）
鈴木 雅文（学校法人大阪創都学園 理事長）
石角 公宏（学校法人大阪創都学園 副理事長）
城 将敏（学校法人大阪創都学園 事務長）
白藤 浩史（教務主任・ダンス学科）
小池 敏（総合学科）
岡本 真由子（音楽技術学科）
杉山 徹（ミュージシャン学科）

<自己評価実施概要>

- ・学生授業アンケート（2024年9月及び2025年2月）
- ・アンケート集計をもとに、自己評価委員会において討議。
2024年度カリキュラムの修正等への反映について確認（2025年3月）
- ・本校実施自己評価アンケートを自己評価委員各位において記入（2025年4月）
- ・自己評価委員会において各自評価表について討議（2025年5月）
- ・自己評価委員会において、2024年度自己評価について取りまとめを行い、内容確認及び承認。（2025年7月）

キャットミュージックカレッジ専門学校 専門課程 2024年度自己評価表

1. 学校の教育目標

(教育理念)

「個性」を磨き 「才能・能力」を高め「技術」を身につける。仕事として、音楽・ダンスなどのエンタテインメントに関わる上で大切な要素を持った人材を育成・輩出する。そして、エンタテインメント業界の発展に寄与する。

◇学生にとって将来につながる有意義な学校であること

◇業界にとって信頼できる人材育成機関であること

(教育目標)

音楽・ダンスなどのエンタテインメントに関わる上で大切な要素を持った人材を育成・輩出する。その為に、音楽・エンタテインメントの専門教育においては、基礎力・応用力・実践力を身につけるカリキュラムを構築し、専門知識や技術を習得します。また、人間力の育成・向上に重要なこの時期、社会生活において必要となる常識・社会性はもちろん、豊かなコミュニケーション力・自己表現力といった社会適応能力を、専門教育を通じて身につけていきます。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

■学生状況の把握

退学防止に向け、学生の状況を把握し早期の対策を講じ、進級率の向上を図る。

■進級率の向上

出席率確認と状況把握から、退学防止に向け早期の対策を講じる。

■就職率の向上

学生が就職活動を積極的に行うよう担任とキャリアセンターの指導で促していく。また、自己表現を主とする活動を目指す学生たちにも一旦は職に就くという進路を提示して経済基盤を持たせるよう取り組む。

3. 評価項目の達成及び取組状況

■進級率の向上

2年生の卒業率については、昨年度対比で6ポイント減少。特定のコースではなく、各コースから退学者が出てしまっている状況。卒業後の状況ともリンクすることから個別状況をしっかり確認したうえで対応を進めたい。1年生の進級率においては目安としている進級率90%をクリアできた。引き続き入学者の中には個別のケアが必要な学生の入学者が増えており、より一層の個別の状況把握に注力していきたい。

(令和6年度進級/卒業率 進級：90.3% 卒業：91.9% 令和5年度進級/卒業率 進級：90.5% 卒業：98.8%)

■出席率と学生状況の把握

授業への出席率に関して、昨年度対比で1年生は2.1ポイント減少。2年生についても1.1ポイント減少。両学年ともに減少という状況となった。メンタル面を含めた体調不良による欠席者も増加傾向にあるので、個別の状況を踏まえて保護者とも連携を取りながら指導にあたっていきたい。引き続き、定期的な学生面談は基より、個別の学生の状態に気を配り、状況の把握に努めていきたい。

(令和6年度年間平均出席率 1年：88.6% 2年：86.2% 令和5年度年間平均出席率 1年：90.7% 2年：87.3%)

■就職率の向上

求人票の受領件数はやや減少傾向にあるが、早期到着分は前年と変わらず、音楽技術学科においては1年生の3月から就職活動を意識してきた学生は概ね進路を決定している。年々募集時期が早まる中、早期対応の重要性が増している。ダンス学科では「インストラクターオーディション」の実施や授業内での自己PR・面接対策が効果を上げ、複数名のインストラクター採用へとつながっている。アーティスト志望の学生については志向に変化が見られ、ミュージシャン系では演奏力を武器に活動をするだけでなく、クリエイター志向を持つ学生も増加している。また弾き語り系では、インターネット上で活躍するシンガーの影響を強く受ける学生が多く、実習での自由演奏曲でもメジャー以外の楽曲を積極的に選ぶ姿勢が確認された。

4. 各項目による点検評価状況

※別紙参照



2024年度自己評価表



学校法人 大阪創都学園

「職業実践専門課程」認定校

キャットミュージックカレッジ専門学校

キャットミュージックカレッジ専門学校 専門課程 2024年度自己評価表(別紙資料)

4.各項目による点検評価状況 (点検の評価について)

[4] 適切 [3] ほぼ適切 [2] やや不適切 [1] 不適切

大項目	点検項目	点検評価	
	1-1	・理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	4
	1-2	・学校における職業教育の特色は何か	4
	1-3	・社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
	1-4	・理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・学生・関係業界・保護者等に周知がなされているか	4
	1-5	・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4
	教育理念・目的・人材育成像	<p>具体的な状況等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在学中にそれぞれの専門分野の知識・技術を理解修得し、卒業後もその将来に渡り分野の追求と活動を行っていきけるような人物像を目指す。 ・企業連携などを積極的に行い現場に即した内容を実施することで職業教育を実践し在学中に身につけられるような取り組みを行う。 ・めまぐるしく変化する業界のソフト&ハードへの対応力を持ち、今後の業界に必要なとされる仕事内容についての情報も吸収しながら調査や研究等も継続していきたい。 ・担任及び講師の指導、業界へのプレゼンテーションイベントや協カイベント、保護者懇談会、三者面談等、の機会において周知している。また、ホームページでの情報公開、学校案内パンフレット、企業向け求人案内などへの掲載等により、学生、保護者、業界関連企業等へ、またこれから進学を考える高校生にも周知がなされている。 ・各学科の連携企業と協力し、「教育課程編成委員会」を設置している。委員会においては学内の現行カリキュラムと業界の動向のすり合わせを行い、業界のニーズに適合した人材育成が行える取り組みを行っている。その中で次年度総合学科の3年制移行についてもご意見をいただきながら進めていっているところである。 	

大項目	点検項目	点検評価	
学校運営	2-6	・目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
	2-7	・事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
	2-8	・運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
	2-9	・人事、給与に関する制度は整備されているか	4
	2-10	・教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか	4
	2-11	・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
	2-12	・教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
	2-13	・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4
		<p>具体的な状況等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的や運営の方針については、毎年、年度当初の職員会・講師会や適宜実施している分野ごとの分会を通じて方針等を周知している。 ・事業計画(行事計画)や教育計画を策定し進めている。 ・長期的な目標を持ち、行事等の計画の見直しを行いながら年度ごとに運営方針が策定している。 ・校長以下組織的な構造を持ち、教務意思決定については明確になっている。 ・個人情報などのコンプライアンスについては、教職員は定例の会議にて周知徹底し、学生についてもホームルーム、各授業を通して指導している。 ・本校のディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーはホームページで公開され、業界や地域に広く公開している。 ・WEBサイト、SNS等を通じて、行事等の報告を行っている。 ・学校評価関係についての開示をしている。 ・学内情報のWEB掲示板やsigfyの活用を工夫し、学生生活や就職関連について効率よく情報発信を行っている。管理システムについては定期的にツールの更新を検討し、さらなる業務の効率化を進めたい。 	

(点検の評価について)

[4] 適切 [3] ほぼ適切 [2] やや不適切 [1] 不適切

大項目	点検項目	点検評価
	(目標の設定等)	
	3-14 ・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
	3-15 ・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3
	(教育方法・評価等)	
	3-16 ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
	3-17 ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
	3-18 ・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
	3-19 ・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
	3-20 ・授業評価の実施・評価体制はあるか	4
	3-21 ・職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
	3-22 ・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
	(資格試験)	
	3-23 ・資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか(技術系コースに限る)	4
	(教職員)	
	3-24 ・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3
	3-25 ・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
	3-26 ・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
	3-27 ・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4
	教育活動	具体的な状況等 ・「個性」を磨き、「才能・能力」を高め「技術」を身に付けるという理念に沿っての教育方針を実施、毎年、業界の求める人物像により近づける努力をしている。 ・科目ごとに講義概要を作成し、到達目標を設けている。また、学習時間に関しては授業だけでなく学外実習、行事等においてもコースごとに明確になっている。 ・カリキュラムについては授業担当の講師と協力して精査を行い、年度ごとに体系的にカリキュラム編成を見直している。 ・教育課程編成委員会で委員からの答申を受け、より実践的な指導が行えるようにカリキュラムの見直しを年度ごとに行っている。 ・近年のエンタテインメント業界の変化に対応できるようにさらにカリキュラム等についての見直しや変更を行っていきたい。次年度の総合学科の3年制への移行については学習内容の見直しや業界企業との連携を見据えた内容として取り組むこととしている。 ・学校主導で行う産学協同イベントへの参加、または関連企業が行う企業研修制度等において、学生からその内容等が報告される。報告内容を検証し、各授業に反映できる組織づくりを目指す。 ・年間2回、在学生たちに授業アンケートを実施。問題点の抽出を行い、改善に努めている。 ・毎年、教育課程編成委員会を実施、外部関係者からの客観的な意見を頂ける工夫をしている。 ・学則に明記された規定に則り、成績評価、出席評価等を行っている。 ・コースごとに取得できる内容に合わせて対応を行っている。検定等の対策は、授業内で対応する場合もあるが、内容や時期によっては対策講座を別途開設する。 ・音楽/ダンス業界の企業と講師派遣契約を結び優れた教員を確保している。併せて、若手講師の育成についても取り組みをおこなっている。 ・現状の契約企業や学科ごとの連携企業をはじめ、様々な業界企業とコミュニケーションを取り、講師派遣の相談しやすいネットワーク形成を行っている。 ・全体講師会等では各種セミナーを実施、知識見聞を広げるための個別セミナーへの参加、各自が自発的に行う自己研磨的なもの(ライブ活動や録音等も含む)等が上げられる。また、教員の指導力育成などの資質向上のための取り組みを実施している。 ・教員と同じく全体講師会等で各種セミナーを実施。休講期間中を使ったミーティング等において簡易的な研修が行われる場合もある。

(点検の評価について)

[4] 適切 [3] ほぼ適切 [2] やや不適切 [1] 不適切

大項目	点検項目	点検評価
学修成果	4-28 ・就職率の向上が図られているか	4
	4-29 ・資格取得率の向上が図られているか	4
	4-30 ・退学率の低減が図られているか	4
	4-31 ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
	4-32 ・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4
	具体的な状況等	
<p>・就職専任スタッフにより、全体的なディスカッションや講座、個別面接、電話対応までを実施。常に就職向上の努力が行いやすい体制にしている。</p> <p>・資格取得率の向上に向けて資格対策講座等も行っている。音楽技術学科では、実務での効果を十分に考慮し新規に資格試験の導入を行っている。</p> <p>・各コースに担任を配置し、学生の個別状況に応じて相談を行える体制を取っている。状況に応じて保護者、授業担当講師とも連携しながら指導を行っている。</p> <p>・キャリアセンタースタッフ、担任が主体となり、卒業生の活動状況の把握に努めている。</p> <p>・業界で活躍する卒業生たちとは良好な関係を築いており、そのネットワーク構築を拡げている。彼らからの協力を得てセミナーやクリニック、特別授業の場を設け、在校生への学びの場を提供している。</p>		

大項目	点検項目	点検評価
学生支援	5-33 ・進路・就職・デビューに関する支援体制は整備されているか	4
	5-34 ・学生相談に関する体制は整備されているか	4
	5-35 ・学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
	5-36 ・課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
	5-37 ・保護者と適切に連携しているか	4
	5-38 ・卒業生への支援体制はあるか	4
	5-39 ・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4
	5-40 ・関連分野における業界との連携による卒後の再教育プログラム等を行っているか	3
	具体的な状況等	
	<p>・専任のスタッフが在校生および卒業生の相談等にも応じる体制をとっている。</p> <p>・専属の担任を配置して学習内容や日常生活等に関しても相談しやすい環境を提供している。</p> <p>・日本学生支援機構の奨学金制度、高等教育の修学支援新制度、提携の教育ローン、学校独自の特別分割、校友会奨学金制度、特待生制度等、様々な支援制度の案内を行っている。</p> <p>・企業研修、就職活動、または学校が提携する学外研修、音楽活動(演奏活動)等の学外活動に対しての公欠を許可し、習得した技術や知識の積極的な実践を推奨している。</p> <p>・成績、出席状況の通知や保護者懇談等、学生の学習状況の情報共有を行っている。また、担任は保護者との連携を取り、学生の個別状況に応じた指導を心がけている。</p> <p>・業界的に中途採用も多いため、卒業後も転職や再就職等の相談に対してバックアップやを行える体制を取っている。またオーディションの案内やサポートも継続して行っている。これらは「フォーエバーサポート」として全学科の卒業生に提供している。</p> <p>・高校ダンス部や軽音部のイベントへスタッフとして参加することで高校生の音楽、ダンス活動を支援するとともに在校生にとって習得した技術、知識を実践する場として活用している。</p> <p>・学内で行う特別授業やオーディション等には、卒業生対応のものもあり、「フォーエバーサポート」の一環として提供を行っている。また、ミュージシャン系の卒業生に対しては関連スクール「キャットエンタテインメントスクール」においても教育機会の提供を行っている。</p>	

(点検の評価について)

[4] 適切 [3] ほぼ適切 [2] やや不適切 [1] 不適切

大項目	点検項目	点検評価
教育環境	6-41 ・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
	6-42 ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか	4
	6-43 ・防災に対する体制は整備されているか	4
	具体的な状況等 ・教育的な必要性に対応すべく設備等の入替えは常に検討して行っている。メンテナンス等の不備が無いよう心がけている。 ・外部の現場に出て行う企業研修制度や外部企業からの依頼による演奏活動においても具体的な指針を示しながら、その充実に向けて取り組んでいる。 ・海外研修は、有志参加による課外活動として取り組んでいる。コロナ禍の中で実施を見送っており、現在再開時期については検討中である。 ・定期的な避難訓練、学内におけるポスター掲示、また随時徹底した担任や学生課からの注意喚起を行うことにより、安全な学校生活が送れるよう努力している。	

大項目	点検項目	点検評価
学生の受入れ募集	7-44 ・高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組を行っているか	4
	7-45 ・学生募集活動は、適正に行われているか	4
	7-46 ・学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか	4
	7-47 ・学生納付金は妥当なものとなっているか	4
	具体的な状況等 ・専門的な内容を理解して頂くための訪問授業や職業体験の受け入れ、または高等学校協賛/主催等の様々なイベントへの音楽的な技術協力にも取り組んでいる。 ・定期的に行うオープンキャンパス(体験授業を含む説明会)等では、説明に多くの時間を割き、各学科の学習内容や就職情報、または納付金を含む入学手続きまでを正確に伝えている。また、保護者の方々にも十分に理解して頂く時間も設けている。 ・資格取得に有利性がある仕事や資格制度がない業種の情報も含め、現状で学校に頂いている求人票等を実際に見ながら説明を行うようにしている。 ・毎年、学校全体の収支条件を調整しながらの運営を行う体制を築いている。よって納付金(学費・設備/教材費等)に関しては大きく変動することなく現在に至っている。	

大項目	点検項目	点検評価
財務	8-48 ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
	8-49 ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
	8-50 ・財務について会計監査が適正に行われているか	4
	8-51 ・財務情報公開の体制整備はできているか	4
	具体的な状況等 事業活動収支では法人傘下の両専門学校におきまして、令和6年度募集がキャットミュージックカレッジ専門学校は昨年並みに踏みとどまったものの、大阪アニメーションカレッジ専門学校は大幅に減少したため、学生生徒等納付金が576百万円となりました。教育活動収入合計は、授業料等減免費補助金を合わせて667百万円となりました。 一方、支出につきましては、国際的な原油価格の上昇や、円安が進行しているため、輸入品の価格、特にエネルギー価格や原材料価格が上昇し、物価が上昇しています。このような中、節電等も含めた経費節減に努めつつ、必要な教育研究用備品を更新するなど行い、教育活動支出の合計は奨学費を含めて660百万円となりました。その結果、教育活動収支差額が7百万円となりました。 また、貸借対照表では、建物、構築物が1,220百万円、教育研究用機器備品等65百万円となり、借入金につきましては、その後借り入れは行っておりませんので無借金経営が継続されています。期末現在の純資産残高は、昨年対比で8百万円増加し、4,210百万円となりました。 令和6年度の募集につきましては、コロナ禍の影響が緩やかに回復している中、エンタテインメント業界の冷え込みも少しずつ回復してきています。そのため、対策をしっかりと練り直し、現在掲げている目標数字に向かって達成できるよう、教職員全員一丸となり、教育活動収入増加に努めるとともに、教育活動支出については合理的に支出し、学校の安定的な基礎維持のため、一定部分の収益確保を目指して健全な学園運営を行ってまいります。	

(点検の評価について)

[4] 適切 [3] ほぼ適切 [2] やや不適切 [1] 不適切

大項目	点検項目	点検評価
法令等の遵守	9-52 ・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
	9-53 ・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
	9-54 ・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
	9-55 ・自己評価結果を公開しているか	4
	具体的な状況等 <ul style="list-style-type: none"> 自己評価については学生授業アンケート等を実施し、カリキュラムの構築や、講師の指導等に役立てている。 WEBサイトでの開示を行っている。 	

大項目	点検項目	点検評価
社会貢献・地域貢献	10-56 ・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
	10-57 ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
	10-58 ・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	3
	具体的な状況等 <ul style="list-style-type: none"> 吹田市・江坂企業協議会との連動による音楽イベントの開催など、地域イベント等に積極的に協力している。 地域の清掃活動や学校へオファーのボランティア活動などについて、趣旨・団体等を確認したうえで学生への案内を行っている。 関西エリアで実施される大型フェスイベント等で、希望者を募りボランティア活動のスタッフ参加を行っている。 行事等においての学校校内の公開は行っている。なお、先述した関連スクール「キャットエンタテインメントスクール」の活動等を通じて、地域等への講座の開設を行っており、受講者に近隣の方も見受けられるようになっている。さらに、この取り組みを続けていきたい。 	

大項目	点検項目	点検評価
国際交流	11-59 ・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	4
	11-60 ・受入れ・派遣等において適切な手続き等がとられているか	4
	11-61 ・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3
	11-62 ・学内での適切な体制が整備されているか	3
	具体的な状況等 <ul style="list-style-type: none"> 日本語学校との交流をはじめ、海外からの見学希望者に対応したりと交流を図っている。 留学生の受け入れについては、入国管理局の指導に即し、各種手続きを適正に行っている。 学生作品をWEBサイト上に掲載する事で海外の方々からも高く評価いただいている。 留学生専門の担当者を配置し、受け入れから卒業後のサポートまで支援を行っている。 	